

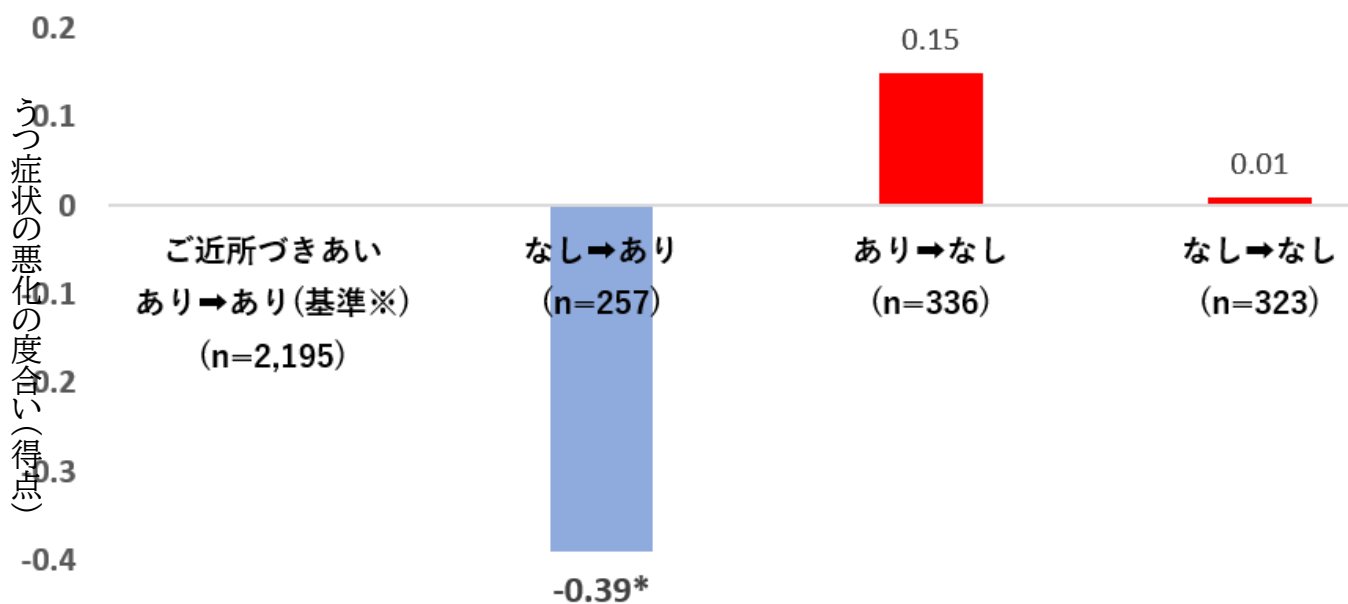


# 震災後にご近所づきあいが生まれると うつ症状の悪化の度合いを抑制 ～東日本大震災前後の高齢者のデータ分析より～

高齢者の震災前後のご近所づきあいの変化は、うつ症状の変化に関連するのでしょうか。本研究では、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県岩沼市の65歳以上の高齢者3,567名を対象とし、震災前の2010年と震災後の2013年の両調査で、うつとご近所づきあいについて回答の得られた3,111名分のデータを分析し、震災前後のご近所づきあいの変化とうつ症状の度合いの変化の関連を調べました。その結果、震災前より震災後にご近所づきあいが増えた人は、震災前後ともご近所づきあいがある人と比べ、震災後のうつ症状の悪化の度合いが0.39点少ないことがわかりました。被災高齢者の心の健康にご近所づきあいが有益な役割を果たした可能性があります。

お問合せ先：国立保健医療科学院 国際協力研究部 主任研究官 佐々木由理 sasaki.y.aa@niph.go.jp

ご近所づきあいの変化とうつ症状の悪化の度合いの関係



震災前後のご近所づきあいの変化

- 「年齢」、「性別」、並びに「治療」、「独居」、「社会参加」、「喫煙習慣」、「飲酒習慣」、「主観的経済状況」、「歩行習慣」の震災前後の変化、震災による「転居」および「身近な親族や友人との死別」の影響を調整しています。
- \*は統計的に有意な関連があったことを示しています。
- ※の基準が発表論文と異なります。



## ■背景

被災地の要配慮者である高齢者を対象とした、震災前後の近所づきあいと震災後の心理的問題の関連について、その変化に着目した分析はありませんでした。本研究では、震災前後の近所づきあいの変化とうつ症状の悪化の度合いの変化の関連を調べました。

## ■対象と方法

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県岩沼市において、震災前の2010年8月と震災後の2013年10月に調査した65歳以上の高齢者3,111名のデータを分析しました。うつ症状は、高齢者用うつ尺度(15項目版 geriatric depression scale)の得点の変化で評価し、震災後の得点が増加した場合を「うつ症状の悪化」とし、震災前後での近所づきあいの変化(近所づきあいが「深い、ある程度」を「あり」、「ほとんどない、ない」を「なし」と)との関連を調べました。「年齢」、「性別」、並びに「治療」、「独居」、「社会参加」、「喫煙習慣」、「飲酒習慣」、「主観的経済状況」、「歩行習慣」の震災前後の変化、更に、震災による「転居」および「身近な親族や友人との死別」の影響を統計学的に調整しています。

## ■結果

震災前と比較して、震災後に1,073名(34.5%)がうつ症状の度合いが悪くなっていましたが、近所づきあいが震災後に増えた人(近所づきあいが「なし」→「あり」)は、震災前後ともに近所づきあいがある人と比べ、震災後のうつ症状の悪化の度合いが0.39点少ないことがわかりました。これは、主観的な経済状況の悪化によるうつ症状の悪化の度合い(0.68点)と比較しても、半分以上のインパクトに相当する抑制効果でした。

## ■結論・本研究の意義

震災前に近所づきあいがなかった場合も、震災後に近所づきあいが生まれていれば、震災後の高齢者のうつ症状の悪化の度合いが抑制されることが示されました。

よって、震災後のまちの復興においては、被災者を孤立させない、近所づきあいが生まれるコミュニティづくりを行うことが、震災後の高齢者のうつ症状の度合いの悪化抑制に有効であると言えます。

## ■発表論文

Sasaki Y, Tsuji T, Koyama S, Tani Y, Saito T, Kondo K, Kawachi I, Aida J.: Neighborhood Ties Reduced Depressive Symptoms in Older Disaster Survivors: Iwanuma Study, a Natural Experiment. *Int. J. Environ. Res. Public Health* 2020, 17(1), 337; <https://doi.org/10.3390/ijerph17010337>.

## ■謝辞

研究にご協力いただきました岩沼市の皆様・岩沼市役所の皆様に感謝申し上げます。

本研究は米国衛生研究所(NIH)、厚生労働省、文部科学省などから研究費の援助を受けて行われました。